

USB ダンパーの導入(15) —電源供給タップへの適用(2)—

1. 始めに

前報(14)に引き続き、電源供給タップへの電源ケーブル差し込み口への適用を行ってみます。

2. USB ダンパーの試聴計画

今回は中村製作所のタップを USB ダンパーの適用対象とします。



これらには、Sonica DAC と Brooklyn DAC+ と fidata HFAS1-S10 と DA-3000 の電源を採っており、下記の再生を行ってみます。なお、Sonica DAC と Brooklyn DAC+ と DA-3000 の電源差し込み口には、すでに USB ダンパーの導入(13)の報告のとおり、USB ダンパーを適用しています。

fidata 収納のファイル音源再生

fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+

BPO DCH 再生

DMR UBZ1→Sonica DAC→DA-3000→Brooklyn DAC+

音源は次のとおりとします。

fidata 収納のファイル音源再生

11.2MHzDSD 音源

ヨハン・セバスティアン・バッハ 無伴奏チェロ組曲

ヤーノシュ・シュタルケル

ステレオサウンド社 SSHRB-005

MQA 音源

ドヴォルザーク 交響曲第 8 番・第 9 番

ラファエル・クーベリック指揮ベルリンフィル

Universal Music UCCG-40074

BPO DCH 再生

ブラームス ピアノ協奏曲 1 番

イエフィム・ブロンフマン(ピアノ)・ダニエル・バレンボイム指揮

マーラー 交響曲 3 番

ロレンツォ・ヴィオッティ指揮

3. USB ダンパーの試聴結果

fidata 収納のファイル音源再生では、電源を採っている fidata HFAS1-S10 と Brooklyn DAC+への影響が考えられます。

無伴奏チェロ組曲、交響曲第 8 番・第 9 番とも、タップへの USB ダンパーの適用により、これらのハイレゾ音源が一層緻密になり、無伴奏チェロ組曲はよりアナログ的になり、交響曲第 8 番・第 9 番はオーケストラの音が緻密になって迫力が出てきました。交響曲第 8 番・第 9 番は MQA 音源で、これまで細かい音は出るものの、どこかスタティックなところが残っていましたが、そういうところが払拭されました。この場合は、Brooklyn DAC+には USB ダンパーを適用済ですが、fidata HFAS1-S10 には適用の作業性の点から未使用でした。

BPO DCH 再生では、電源を採っている Sonica DAC と DA-3000 と Brooklyn DAC+への影響が考えられます。ブラームスのピアノ協奏曲 1 番、マーラーの交響曲 3 番とも、わずかに音が緻密なっくらいかなという程度でさほど大きな効果があったとは言えません。この場合は電源を採っている Sonica DAC と DA-3000 と Brooklyn DAC+すべての機器の電源差し込み口に USB ダンパーを適用済です。どうやら、機器側の電源に USB ダンパーを適用済の場合は、タップに USB ダンパーを適用しても、上積みの効果は期待できませんが、機器側の電源に USB ダンパーを適用していないものが残っている場合はタップに USB ダンパーを適用する効果が出てくるようです。このことは、前報(14)の結果とも調和します。

4. まとめ

デジタル音源の再生系における二つの経路の再生で、タップへの USB ダンパーの適用を行った結果、機器側の電源に USB ダンパーを適用済の場合は、タップに USB ダンパーを適用しても上積みの効果は期待できませんが、機器側の電源に USB ダンパーを適用していないものが残っている場合は、タップに USB ダンパーを適用する効果が出てくるようです。

以上